8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

（1）実施状況

河川の幅を広げ、堤防を築き、洪水に強い大きな河川にしました。

32

8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

（2）事後評価の視点

① 事業の効果の発現状況

② 事業実施による環境の変化

33

8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

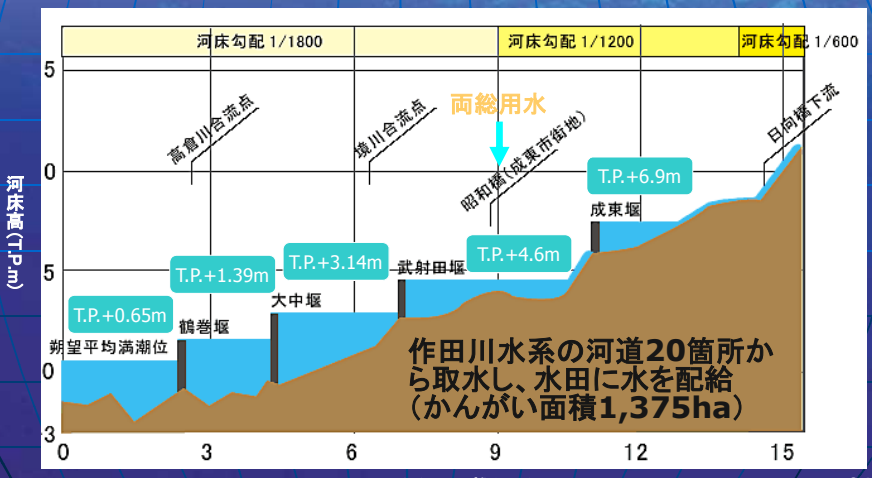
（2）－①　費用対効果の発現状況

かんがい期：3月～8月

農業用水の安定供給

☆3月～8月は4箇所の堰で水がめを確保

☆両総用水を利根川から補給



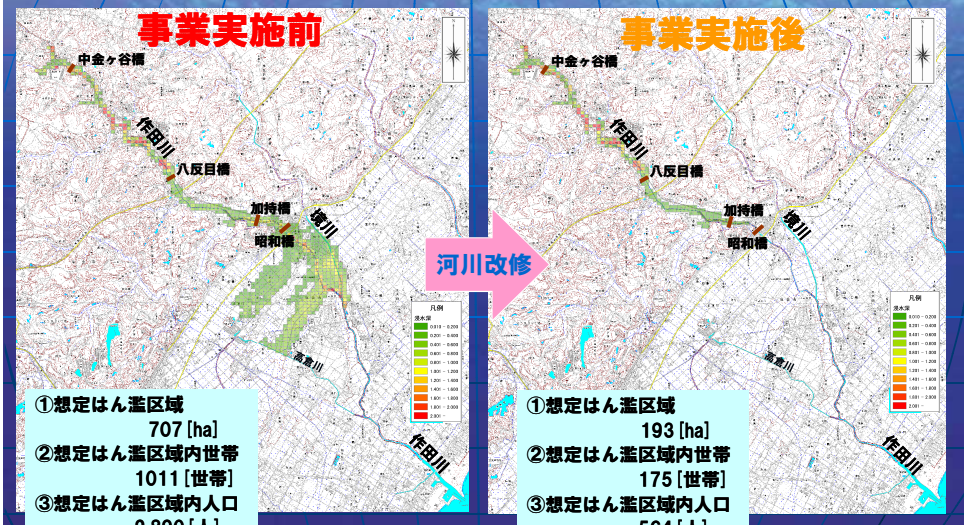
8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

（2）－①　費用対効果の発現状況

作田川はん濫シミュレーション結果

事業実施前1/10（整備計画規模）

基準年・・・平成１５年度



8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

（2）－①　事業の投資効果　総便益(B)の算定

浸水被害の軽減　（降雨確率1/10規模を含むこれ以下の洪水に対する浸水被害の軽減。）

- ◆ 浸水面積　707ha　→　193ha
- ◆ 浸水世帯数　1,011世帯　→　175世帯

総便益の算定

事業完了後、50年間にわたって治水効果を発揮するものとして、その期間の被害軽減額を算出。

⇒ 総便益は将来の経済効果を含めると、2,092億円となる。
これを※現在の価値に換算すると、1,129億円と算出される。

※ 現在価値とは 将来の価値を現在の価値に置き換えたもの

総便益（B）1,129億円

36

8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

（2）－①　事業の投資効果　総便益(C)の算定

これまでの建設費
（現在の価値　125億円）
＋
事業実施中及び事業完了後50年間にわたる維持管理費　25億円
（現在の価値　13億円）

事業に要する総費用は現在の価値で 138億円
（＝125＋13）

総費用（C）138 億円

37

8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

（2）－①　費用対効果の発現状況

改修事業における投資効果

総便益の算定（B）	総費用の算定（C）
総便益 2，092億円	総費用 119億円
現在価値化 1，129億円	現在価値化 138億円

※費用対効果（総便益Ｂ/総費用Ｃ）　※投資した費用に対して得られた効果

1，129億円÷138億円= 8．2 ＞ 1

投資効果あり

8．床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

（2）－②　事業実施による環境の変化

事業区間における環境保全対策

◆ 動植物の生息・生育環境の確保

→瀬・淵の保全・創出、水際～法面の連続性

◆ 重要種等の生育地の保全

→コウホネ（生育環境保全、移植）

→成東・東金食虫植物群落

（湿地の保全と地下水位の維持）

◆ 河川連続性の確保

→武射田堰改築に伴う魚道設置